

尾瀬ネットワーク通信



Vol. 22. No. 3 2019年11月

----- 目 次 -----

【尾瀬の豪雨とそのリスク】・・・・・・・・・・1

福島側特別研修・・・・・・・・・・・・・3

山の日ガイド（福島側）・・・・・・・・・・3-4

群馬側-活動報告・・・・・・・・・・・・・4-7

2019 尾瀬アカデミー（福島/群馬）・・・・・・・・8-9

事務局だより・・・・・・・・・・・・・10

【尾瀬の豪雨とそのリスク】

副理事長 大山 昌克

台風19号により亡くなられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。一刻も早い復旧をお祈り申し上げます。

2019年のフィールド活動は事故、怪我もなく10月にすべて終了しました。

今年は大雨の影響により、本年の現地活動の内2つが中止を余儀なくされました。7月下旬予定の「笠が岳植生調査」と10月予定の「2019尾瀬アカデミー（第2回）」の二つです。自然の猛威には逆らえないと知りつつも、20名を超えるご参加予定者、私たちスタッフともども無念の極みです。

○尾瀬は集水域

尾瀬国立公園は、山岳地域の湿原を核として成り立ち、また各河川の水源となつています。尾瀬ヶ原、尾瀬沼、また周囲の山腹に降った雨は、湿原を集水地として経路し、各河川に流れます。私たちが歩く木道は、この集水地に設置されたも

のであるため、大雨となればいち早く木道が冠水、また木道の流出などが発生し、歩行は極めて困難な状況となります。過去には三名の水死（低体温症）の事故も発生しています。

○台風19号による尾瀬の豪雨

関東甲信越、東北地方で甚大な被害をもたらした2019年台風19号は、尾瀬内でも大きな爪痕を



2019/5/21 豪雨-ヨッピー橋周辺-84mm豪雨（12時間）
東電小屋-後藤氏ご提供

残しました。尾瀬保護財団によれば、①平滑の滝～三条の滝ルートは、橋の崩落により通行止め②尾瀬沼南岸（三平下～沼尻）は、倒木のため当面通行止め③下ノ大堀川は、木道流出のため通行止め（付け替え工事は終了していたものの、

古い木道を搬出のため脇に積み上げていたものが流出）④燧ヶ岳の各登山道で複数の倒木⑤尾瀬ヶ原、大江湿原、浅湖湿原などを周遊する主だった木道は水没⑥三平峠の大規模な倒木⑦沼尻川氾濫により、竜宮小屋近くの高架木道まで冠水、などが確認されています。また桜枝岐村では、全202世帯（551名）に避難指示も発令されました。鳩待峠観測所の計測では、雨は10/11（金）より降り始め、10/12（土）116

mm、10/13（日）12mm、10/14（月）14mmとなり、10/15（月）の9時に止むまで累加148mmの豪雨となりました。特に10/12（土）は、1時間に10mm前後の雨量が続き、夕刻17～18時が最大値（1時間/16mm）でした。

○累加雨量50mmはメルクマール

報道で大雨注意報として「1時間に80mmを超える大雨が発生・・・」などよく耳にしますが、尾瀬ではどの程度の降雨で、木道が冠水するのかなど明確な数値はどこの機関も出していません。

常時、河川の氾濫や洪水を監視している国土交通省利根川統合管理事務所では、鳩待峠観測所の降水量が1時間20mm以上、または累加50mmを超えると片品川の氾濫・洪水警戒体制となり、参考になります。（累加＝降り始めからの総量）

○「累加50mm以上」の検証

国土交通省利根川統合管理事務所「鳩待峠観測所」データに基づき、「累加50mm超え」の降雨、特に頻度、時期（年別、月別、旬別）など検証を試みました。すると累加50mm以上の降雨は、過去24年間で累計181回発生、発生頻度は毎年7～8回になることがわかりました。累加雨量50mmは、河川の氾濫アラームが発せられる段階ですので、それ以上の降雨量は、尾瀬内において、冠水や氾濫が発生すると考えるべきであり、ハイカーにとってはきわめて危険な降雨水準と考えます。豪雨は強風も呼び込み、林床の「落枝」も河川氾濫と同様に大変怖いものです。「尾瀬豪雨の頻度」を一覧にしました。

| 累加降雨量 | 24年間の | 頻度 |
|---------|-------|--------|
| | 発生回数 | |
| 50mm以上 | 181 | 7.5回/年 |
| 60mm以上 | 144 | 6回/年 |
| 100mm以上 | 55 | 2.3回/年 |
| 130mm以上 | 36 | 1.5回/年 |
| 150mm以上 | 20 | 0.8回/年 |
| 190mm以上 | 10 | 1回/2年半 |
| 200mm以上 | 8 | 1回/3年 |

尾瀬はかなりの頻度で冠水、洪水が発生しています。なお検証解析期間は24年間（1995～2018年）、観測データは国土交通省-鳩待峠観測所の1時間雨量計測です。なお今回の豪雨（台風19号）を含め累加50mm以上の豪雨は、2019年は7回目となります。（10月末日現在）

○尾瀬の雨量と主な記録

いずれも期間/1995～2018、観測地/鳩待峠観測所

■年間平均＝1495mm

（最大2012mm/2011年、最少955mm/2003年）

- 月間最大値＝588mm（2011年7月/1998年8月）
- 日最大値＝195mm（2011年7/28）※
- 1時間最大値＝42mm（2000年8/5）
- 断続的な豪雨最大値＝445mm（2011年7/25-31）

※平成23年7月新潟・福島豪雨（2011年7/27～30）

○最近の降雨の傾向

尾瀬（鳩待峠）の年雨量は、約1500mmです（24年間）。しかし最近の降雨量は増加傾向です。5年平均＜（1995～1999年） / （2014～2018年）＞を比較すると、年1414mm→1664mmとなり18%増、250mmの降雨量が増えています。

また私たちが尾瀬を訪れる6月～10月の5ヶ月間は、「尾瀬の雨期」とも呼べるほど降雨日、降雨量が多く、その総量は年間の6割強となり、その「尾瀬の雨期（6～10月）」も、降雨日数、降雨量ともどもかなり増加傾向です。（特に8月～9月の「日/10ミリ以上」の降雨日が増加中）

10ミリ（＝1cm）の雨量は小さいと思われるかもしれませんが、都市部と違い、尾瀬は山岳地域であり各河川の水源地です。尾瀬沼は1.67Km²ですが、尾瀬沼の集水域は13.1km²と約8倍の面積から水が集まります。この集水域に降る10ミリの雨量は、計算上13万1000トン（1億3000万リットル）となり、この雨量が尾瀬沼および河川に吸い込まれていきます。

夏期の尾瀬訪問時には、気象情報に特段の注意が増々必要となります。

■ 福島側「特別研修」—

『奥只見発電所と
田代山(1926.3m)』

指導員 菅野 文子

【日程：2019年9/7(土)～8(日)】

9月7日、早朝、朝露にキラキラと光る真っ白なソバ畑を眺めながら御池を目指しました。

特別研修のテーマは「尾瀬の水の行方」です。

※この水がいかに自然を育み貢献しているか。

※水の大切さ

※日本有数の水力発電所見学

御池より会津バスに乗り尾瀬口乗船場へ。途中オオハンゴンソウの除草作業を行った小沢平を通りましたが、その付近には黄色の花畑はありませんでした。

船着場から「新はっさき丸」に乗船。天気にも恵まれ、満々と水を湛えた、青々とした水の上を白い波紋を残しながら進みます。デッキからの眺めは最高でした。兩岸は美しいフィヨルドのよう。振り返ると燧ヶ岳が。さらに左岸に平ヶ岳、右岸に虚空蔵岩、大きく左に水路が開け、荒沢岳が見えました。

奥只見ダム見学ではJ-POWERの伊藤さんにご案内していただき、ヘルメット着用でひんやりとした発電所の中へ。現在1号機から4号機まで稼働中で、発電所の最大出力は56万kwで国内最大級という。またこの莫大な水を蓄えた奥只見ダムでは、雪が降る前に放水し、より多くの雪を溜られるようにするそうです。雪は白い石炭とも呼ばれています。降雪量の累計は平均で26メートル、最大積雪深は4～5メートル、大雪の年は6メートルを超え想像を絶する雪の量です。

この発電所は川越市にある東地域制御所で一括集中制御しています。大自然の恵みを生かし、このような大規模な工事が計画され、発電という暮らしになくってはならないものとなっていることを目の当たりにしました。



＜奥只見ダムで説明を受ける＞

いつもながら自然を満喫し、とても幸せな気分でのき屋さんにお世話になりました。自然に感謝、山椒魚にも熊ご飯にも合掌。

2日目は田代山へ。キンコウカの色づき始めた草紅葉に癒されながら雲の上の湿原へ到着し、素晴らしい景色にまた感動しました。



＜田代山「山頂のトイレ」＞

【参加者8名】

飯沼巳好、磯部義孝、菅野文子、円谷光行、刀光夫、鍋山智之、西田玲子、+鈴木隼人さん（当会の友人）

■ 『山の日』制定記念事業（福島側）—

“尾瀬自然ガイド”23名参加

～日程：2019年8/11(山の日)～

理事/事務局長 円谷 光行

今年で4年目。昨年までのコースは沼山峠登山

入口から沼尻(沼尻平)の往復でしたが、帰りの時間に余裕がなかったため、今年から尾瀬沼に逆さ燧ヶ岳がくっきりと映る三平下までの往復コースで行われました。

4グループに編成され、当ネットワークのガイド(指導員)から、花の名前や名づけられた由来、尾瀬の開山にかかる歴史、大江湿原出入口等に設置されているシカ柵の話、またビジターセンターでは「尾瀬の四季」のビデオを鑑賞し、更に夏の尾瀬の特徴など詳しい解説を聴きました。

参加された方々から来年はぜひ尾瀬にいきたい、燧ヶ岳を登山し山頂から尾瀬ヶ原などを一望したいと感動されました。

三平下までの往復行程は、参加された方々から静かな尾瀬をゆっくりと探勝することができたとの言葉を頂きました。

また、ガイド・サポートされた指導員も余裕をもって行動ができたようです。

前日の午後5時から指導員の打合せを行い、受付・ケガ防止と発生時の対応、分かりやすい説明やガイドの注意点、サポート担当の役割と積極的な説明などの確認を行い実践に備えました。



<③グループ燧ヶ岳をバックに)>

(ガイド担当者)

- ①グループ：磯部義孝、高槻弘美、高橋絹江
- ②グループ：鍋山智之、横田 隆、
- ③グループ：菅野文子、刀 光夫、西條丈吉
- ④グループ：円谷光行、伊東順子

■活動報告 (群馬側)

群馬側担当理事 小鮎 守

○第3回群馬側活動

—台風接近のため中止—

2019年7/26~7/28の予定で、笠ヶ岳植生調査を予定しましたが、台風6号の影響で中止を余儀なくされました。

○第4回群馬側活動 (山の日)

・「山の日」にあたり、尾瀬ヶ原ガイド活動
および自然観察会の実施

・2019年8/10(前泊)~8/11

本日は、晴天に恵まれた活動日となりました。10日は山ノ鼻で最高気温が30℃となり、11日は熱中症に配慮した活動となりました。6時40分尾瀬高原ホテルを出発。「山の日ガイド」を開始しました。途中より至仏山に向かう女性2名の参加要望もあり、5名の方々を案内するガイド活動となります。



尾瀬の植生多様性について改めて勉強になります。

尾瀬ヶ原のこの時期は、ニッコウキスゲをはじめとする夏の花々が多く見られると思っ

ていましたが、ニッコウキスゲはかなり少なく、他の植物も以外と少ない夏期らしくない様相でした。

竜宮小屋近くでは、尾瀬内では生息数1本のみと言われる、環境省指定-絶滅危惧IB類(EN)の

「シバタカエデ」を観察しました（写真）。その後、東電小屋へ向かいヨッピー川から、シカ柵が施されている箇所を観察、併せて広範囲にわたるシカ害の痕跡を観察しました。つくづく何か良い対策はないものかと思います。

この暑さの中での活動・・・本当にご苦労様でした。またお疲れさま。

参加者 ①一般参加者 5名

②指導員 6名

上原健司、大山昌克、小鮎 守、須賀邦雄、中島周子、初谷 博

・行程

尾瀬高原ホテル（シャトルバス）-鳩待峠・ガイド-山の鼻-尾瀬ヶ原-竜宮小屋-ヨッピー-東電小屋-ヨッピー-山の鼻-鳩待峠-尾瀬高原ホテル



山の日ガイド 2019/8/11

○第5回群馬側活動（特別研修）

日程：8月30日（金）前泊～9月1日（日）
尾瀬沼/尾瀬ヶ原の自然環境調査および指導員の研修を実施。

【1日目】

夏も終わりに近くなり、草花も秋の花に変わろうとしているためか登山者も少なく、静かな大清水より入山しました。昨夜の雨も上がり、さわやかな気持ちで一之瀬に到着。三平峠までの登り道

に気合が入ります。

途中、「尾瀬沼注水口」を見学。尾瀬沼の水を群馬側に引き入れているのに、「注水口」とは理解しにくい名前です。尾瀬沼より取水をするために山腹にトンネルを掘ったものであり、戦後に工事を再開して昭和25年11月完成、通水が始まったと聞きます。



尾瀬沼注水口

三平峠からは下りではあるものの、どうも膝に違和感を覚え、あと何回この道を通れるものかとやや不安になりました。

尾瀬沼では小屋のような形の取水口を見学、また近くには大きな浄化装置も設置されています。

新ビジターセンターの建設現場を見ると、ここは国立公園内なのかと疑ってしまいます。大きな重機で掘り下げ、地面に分厚いコンクリートの塊や鉄骨の柱など、都会のビル工事現場そのものです。自然保護の聖地といわれる尾瀬が泣いています。加えて資材輸送のヘリの爆音には、思わず耳を塞いでしまいます。



工事は急ピッチ！ 2020年供用予定

未だに残されたままの沼尻のゴミ投棄現場。表面だけを取りさらっただけで、以前と変わらず放置されています。



沼尻のゴミ投棄現場 2019/8/31

尾瀬はまだまだ沢山の問題が残されたままです。私たちはこれらを定期的に観察して、異議や意見を発していく立場ではないかと思えます。

白砂湿原、見晴のキャンプ場周辺は、外来植物が沢山みられ、今後は調査が必要と思えます。機会をとらえて実施する予定です。

【2日目】

弥四郎小屋からヨッピーに向かう途中に、切れた状態の蛇腹の排水管がありました。排管の中より温泉のような臭いをさせた水が流れ出ています。木道の脇にあり、木道からよく見える箇所です。この切れた排管は何なのでしょう。流れ出る水



見晴の「切れた排管」2019/9/1

は何なのでしょう。またどこから流れているのでしょうか。対策や措置のないまま、昔から放置されているようです。

見晴からヨッピーの間は、ヤマドリゼンマイの畑と化し、乾燥化が進んでいます。昔はここではゼンマイ取りが行われていたそうです。

・植生調査現場確認

三条の滝へ向かう途中では、絶滅危惧種などの植物調査現場を見学しました。折から尾瀬学術調査最終年でもあり、専門員らが植生の調査を行っていました。地道な活動ですが、尾瀬の基礎科学であり重要なことです。

シカ害対策の現場の一つであるヨッピー川周辺では、数kmにわたりシカ柵を設けている箇所があります。またシカ害防止用のネットは、皮肉にも動物の食害防止とともに、人による盗掘防止の意味もあるようです。シカ害は今も続いています。更なる有効な対策が望まれます。

・行程

8/31：大清水一-之瀬-放水トンネル-三平峠-

尾瀬沼-（ビジターセンター、長蔵小屋、沼尻ゴミ捨て場など）-白砂湿原-イヨドマリ-見晴-弥四郎小屋（泊）

9/1：見晴キャンプ場（周辺外来植物）-切れた排管-三条の滝-希少植物調査現場-牛首-山の鼻-鳩待峠（解散）

2日間にわたり、活動お疲れさまでした。普段は余り接することが少ない尾瀬の歴史や、課題箇所の確認など盛りだくさんの活動となりました。今後のみなさんの活動のお役に立てればと思っています。よろしくお願いします。

参加者

伊藤アケミ、大山昌克、小鮎 守、
須賀邦雄、長島睦世

○第6回群馬側活動（本年最終）

9月20日（金）前泊～21日（土）入山指導後、アヤマ平の自然環境調査/観察を実施。

尾瀬ヶ原は、草紅葉のシーズンであり多くの人

出が予想されていましたが、あいにく熱帯低気圧の影響で閑散な状況となってしまいました。曇りの予報に反し雨がひどくなり、活動のブースは、鳩待休憩所をお借りし新たに設置して入山指導を実施しました。

雨も小降りとなり、アヤメ平へ自然観察、環境調査へ向かいます。

林内は雨の影響はほとんどありませんが、ブナの大木が数本倒れ無残な姿をさらしていました。先日の台風による強風のため折れたものと思われる。濃霧と雨で行きかう登山者も数人足らずです。



横田代から中原山付近では、「木道の付け替え工事」が大規模に行われていました。踏み荒らしのため、極端に破壊されたアヤメ平ですが、木道の「付け替え用資材」が貴重な湿原の上に置かれ、草花が押しつぶされている姿は、何とも言いようがありません。

「利用者優先」の作業がとても残念です。もっと自然に配慮した工事はないものなのでしょうか。このままだと、いつしか大規模な自然破壊につながることを、尾瀬の関係者なら、みな知っ



濃霧の中「ミズゴケ」を貼る作業 2019/9/21

ているはずなのに残念です。

アヤメ平は標高 1969m にあり、気象の変動が激しい山頂です。このアヤメ平では、総勢 10 名くらいの男性による「植生再生」作業が行われていました。ミズゴケを裸地に貼る作業のようです。一度破壊された自然は二度と元には戻らない。昭和 40 年代から始まった復元作業ですが、50 年以上の年月をかけても元に戻っていない現状です。自然保護の必要性を深く考えさせられる場面でした



用意された「ミズゴケ」 2019/9/21



アヤメ平の復元作業を示す看板

行程

旅館「いさ」-シャトルバス-鳩待峠（入山指導）-アヤメ平-鳩待峠-旅館「いさ」

雨と濃霧の中での活動お疲れさまでした、無事下山できました。ありがとうございました。

また今回で群馬活動はすべての行事終了となります。皆様のご協力に感謝いたします。

参加者：秋元淑子、大山昌克、小鮎 守

須賀邦雄

■ 2019 「尾瀬インタープリター養成講座」 開講



オゼコウホネ
当会のシンボルフラワー

2019年の第1回「尾瀬インタープリター養成講座」は、群馬側2019年7/6~7、福島側2019年7/13~14に開かれました。福島、群馬、栃木、東京の各地より9名の方々に受講していただき、カリキュラムに沿った研修が行われました

○2019年新会員9名（養成講座の参加者）

| | |
|----------|---------|
| 黒崎 哲也さん | 福島 明さん |
| 浅野 希梨さん | 門馬 幸枝さん |
| 桑名 光子さん | 田村 泰彦さん |
| 佐々木弘樹さん | 高橋まり子さん |
| 蜂須賀 克明さん | |

・研修風景（第1回「尾瀬アカデミー」）



・研修ルートなど

| 福島側 | 群馬側 |
|--|---|
| <p>7/13 (土) 【フィールド研修-第1日目】 小雨のち曇り 御池から沼山峠駐車場へシャトルバスで移動 (開講式は、沼山峠駐車場にて行う) 沼山峠登山口～大江湿原～三本カラマツ～沼尻 ～段小屋坂～見晴～尾瀬ヶ原散策～燧小屋 (泊)</p> | <p>7/6 (土) 【フィールド研修-第1日目】曇り 集合 8:15→(簡単な挨拶/自己紹介/準備運動)→ 鳩待峠発 8:30 分→至仏山方面「原見岩」10:00 着→(休憩)→鳩待峠 11:15 (昼食) 鳩待峠 11: 45 発→山の鼻 12:45→(休憩)→研究見本園→山 の鼻発→戸倉マルイ旅館 16:30 (泊)→夕食後 19:00～20:30 ミニ座学など</p> |
| <p>7/14 (日) 【研修-第2日目】 雨のち曇り時々雨 燧小屋 7:00 発～赤田代～東電小屋往復～温泉 小屋休憩所～段吉新道～燧裏林道～14:00 御池 着 御池休憩所にて閉講式(解散)</p> | <p>7/7 (日) 【研修-第2日目】曇り時々晴れ マルイ旅館 6:30 発→山の鼻 8:00 着→(休憩) →山の鼻発→上田代→下の大堀川→10:30 竜宮小 屋(昼食)→(ヨッピー橋経由)→牛首1(休憩)→ 鳩待峠 14:00 (解散)</p> |

・7月に咲く花々も堪能—研修時に確認された主な植生—

| 福島側 | 群馬側 |
|---|--|
| <p>マイヅルソウ、ゴゼンタチバナ、ギンリョウソ ウ、アカモノ、ワタスゲ、タテヤマリンドウ、ヒ メシャクナゲ、レンゲツツジ、カキツバタ、ヒオ ウギアヤメ、ニッコウキスゲ(咲き始め)、ハク サンチドリ、サワラン、トキソウ、ヒツジグサ、 ミツガシワ、モウセンゴケなど。</p> | <p>イチヨウラン、イワイチョウ、オオバキスミレ、オ オバミゾホウズキ、オオレイジンソウ、ヤシャビシ ャク、ホソバノキノチドリ、ナガバノモウセンゴケ、 カキツバタ、ツルコケモモ、ガクウラジロヨウラク、 シバタカエデ、コケイラン、サギスゲ、ワタスゲ、 ヤナギトラノオなど。</p> |

○みなさんのお蔭で、怪我無く、事故なく第1回は終了できました



※なお 10月12～13日に予定していた2019年「第2回尾瀬インタープリター養成講座」は、台風19号の影響により中止といたしました。この第2回(福島/群馬合同研修)は2020年7月を予定しており、ご報告は次年度(会報8月号)に新会員のご紹介と併せて掲載する予定です。

事務局だより

① 『尾瀬アカデミー2019』合同研修

台風19号の影響で中止

～2020年受講者と併せて7月上旬に予定～

受講者9名による「尾瀬アカデミー2019」合同研修(尾瀬沼周辺)は、10月12日～13日に予定しておりましたが、「大型で猛烈な台風19号が3連休の日本列島を直撃する可能性が高まったため」、10月10日午前9時に安全性を最優先し「開催の中止」の決定を行いました。

10月開催は、予備日を取っていなかったため受講者・講師等の日程調整が困難となり、2020年開催募集にかかる新受講者と併せて来年7月上旬に行う予定となります。

② 尾瀬ヶ原で新種の昆虫発見！

和名：「オゼマダラモンヌカカ」

学名：「Monohela ozeana Kanasugi, 2019」

- ・2019年6月日本昆虫分類学会により新種と認定。双翅目ヌカカ科（漢字表記「糠蚊」）
- ・体長1～2mm
- ・発見者：尾瀬保護専門員/「ぐんま昆虫の森」昆虫専門員 金杉隆雄氏。

※なお下記写真は、11月会報のため特別にご提供いただきました。



オゼマダラモンヌカカ

「ぐんま昆虫の森」昆虫専門員 金杉隆雄氏撮影

③ 「エコプロ2019」に初出展予定

日時：2019年12/5（木）～7（金）10：00～17：00
会場：東京ビックサイト（西ホール）

当会の会員増強および尾瀬カード会員募集のため、企業、大学、地方公共団体、NPOなど環境関連団体が一堂に集まる「エコプロ」に初参加、出展します。ミニミニブースを設け、当会のアピールを行いますので、お近くの方はぜひおいでください。

<https://eco-pro.com/2019/>

④ 『ぐんまの自然の「いま」を伝える報告会2020』に出展予定（主催/群馬県）

日時：2020年1/11（土）～2/16（日）

会場：群馬県立自然史博物館

群馬県内の多様な自然保護や保全活動の取り組み紹介、および報告会が開かれます。併せて保全活動のシンポジウムも開催されます。当会は昨年引き続き活動内容の展示する予定です。お近くの方はぜひ、おいで下さい。

<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>

NPO法人

尾瀬自然保護ネットワーク

Vol.22. No.3 (2019年11月20日)

発行人：磯部義孝

編集担当：大山昌克

Web担当：鈴木誠一

■本部事務所（事務局）

〒969-0404 福島県岩瀬郡鏡石町旭町19円谷様方

電話/FAX0248-94-5003

info@oze-net.com<info@oze-net.com

■群馬支部

〒371-0846 前橋市元総社町2-21-12 小鮎様方

電話/027-251-1089

<http://www.oze-net.com/>